

湖東普及だより

R2
春号

編集発行
滋賀県湖東農業農村振興事務所農産普及課（発行責任者：近藤 篤）
（湖東農業普及指導センター）

〒522-0071 彦根市元町4番1号

TEL：0749-27-2228 FAX：0749-23-0821 E-mail：ga32@pref.shiga.lg.jp

Facebook アドレス：https://www.facebook.com/hukyudayori.kotou

Facebook ページ2次元コードはこちら→



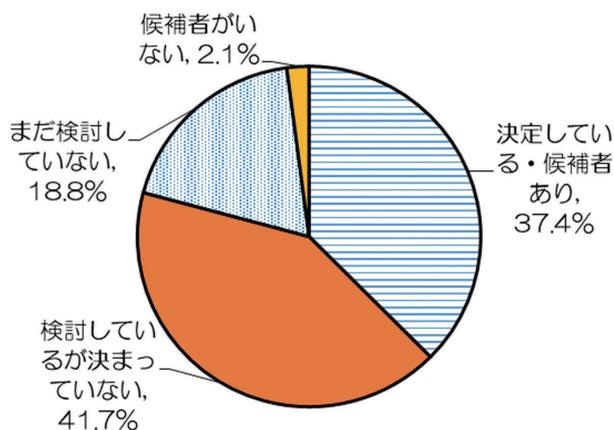
今こそ話そう！ 集落営農法人の将来

役員やオペレーターの後継者育成をしましょう！

「うちの法人は若い者がおらん」集落営農法人の役員さんと話をすると多くの方はこう言います。管内では、平成16年から営農組合から集落営農法人への移行が始まり、令和元年10月現在で56組織が法人化しています。法人の設立当初は「集落の農地は集落で守ろう」としていたものが、いつの間にか役員に任せきりになっていないでしょうか。

平成29年度に実施した集落営農に対するアンケート調査結果では、管内の約60%の法人で10年後に主導する次世代メンバーが「いない」や「決まっていない」状況です（右図）。

当課では集落営農法人は重要な担い手であると位置づけています。次世代の役員やオペレーターを発掘あるいは育成するために、平成30年度に甲良町、令和元年度は豊郷町の集落営農法人による話し合いの場を設けました。まず、構成員のメンバーを年齢順に並べて、10年後までの体制を検討してもらいました。いわゆる「人材のたなおろし」です。この表を作ることで、将来の後継者確保が難しいことが明らかになりました。



10年後の主導する次世代メンバーについて



そこで、ある法人では若い世代に積極的に声をかけてオペレーターの育成に着手しました。

また、別の法人では、役員交代の取り決めを行い、持続的な組織運営をめざして体制の見直しをされました。

後継者不足にお悩みの集落営農法人の役員のみなさん「まず話すこと」から始めてみましょう。

推進しています！ 組花加工用の花き

直売所やホームセンターなどでは、購入してすぐに活けることのできるパック花や仏花などの組花の販売が目立つようになってきています。花きを栽培される方の中には、直売所へ組花出荷を経験されている方もいるでしょう。

県では市場や組花加工業者と話し合い、組花加工用花きの推進をしています。今号では土地や環境条件に合わせた品目を紹介します。



水田の生産調整は小ギクで

湖東管内では昭和40年代から小ギクの栽培が始まり、平成19年からは仏花に使われる「短茎小ギク」の栽培を推進しています。8月盆の需要向けに黄色の品種を集中的に栽培し、大阪の市場へ出荷しています。自然開花品種が主流ですが、電照による開花調節が可能な品種もあります。

ビニールハウスでは中輪ギクを

仏花では白色の中輪ギクは欠かすことができません。中輪ギクは、花き専用ハウスや水稻育苗ハウスで栽培が可能です。「少量土壌培地耕」という養液栽培システムを導入することで、経験年数を問わずに、生育ムラの少ないキクが栽培できます。8月盆需要と年末需要があり、それぞれの出荷時期に適した品種を作付けします。



湿田にはリンドウを

リンドウも8月盆の仏花に欠かすことができない品目で、冷涼な長野県や岩手県の産地が有名です。近年、滋賀県でも栽培ができることがわかってきました。乾燥には非常に弱く、水分の要求量が多いことから湿田での栽培に向いています。また、野生獣の食害に遭いにくいいため獣害被害地域での栽培が期待できます。1年目は株の養成のため収穫できませんが、2年目から収穫できます。なお、5年目以降は株が弱るので植え替えが必要です。

不耕作地や乾田にはクロマツを

正月飾りに需要があるクロマツは、集落の高齢化や獣害を受け、水稻や野菜を作付けすることが困難な乾きやすい水田での栽培がオススメです。「山採りができるじゃないか」という声もありますが、販売規格に合うクロマツを作るには栽培する必要があります。収穫までには播種をしてから3年を必要とするため、今から始めてみませんか。



コスト削減!!簡易棚でブドウ栽培を!

本県では自分で設置が可能で、これまでのブドウ棚に比べて大幅にコストが削減できる簡易棚によるブドウ栽培を推進しています。

これまでのブドウ棚に比べて低コスト

これまでのブドウ棚は 10a 当たり約300万円かかっていましたが、簡易棚は10a 当たり150万円程度で施工可能です。

自分で設置が可能

さらに、直管パイプを自分で切断し、ベンダーで曲げて加工することで、施工費を大幅に削減することができます。

Facebook ページ「湖東普及だより」もご覧ください。

ブドウのニーズはまだまだある

スーパーには県外産ブドウがたくさん並べられていますが、地元湖東地域産のブドウが全く並んでいないのが現状です。湖東地域ではまだまだ栽培面積が少なく、地元産へのニーズが満たせていません。簡易棚を設置してブドウ栽培にチャレンジしてみませんか。



豊郷町で設置された簡易棚



パイプを曲げるベンダー

獣害対策、あきらめるにはまだ早い!!

獣害でお困りではありませんか?

近年、主に山沿いの集落でサル・シカ・イノシシなどの野生獣による被害が増えています。補助事業や個人による侵入防止柵が設置されていますが、なかなか被害を止めきれない状況です。

そんな中でも、野生獣から集落の農地を守っている成功例が幾つかあります。特にサル対策は、柵や道具ではなく、集落ぐるみでの徹底した追い払い活動が最も有効です。

農産普及課では集落ぐるみで野生獣対策を行うきっかけとして「集落環境点検」をすすめています。これは集落全体の状況を集落の住民が現地で確認し合い、戦略を立てるための取り組みです。

野生獣も餌があるから集落に来ているだけです。冬の間には餌を与えないように集落の足並みをそろえないと野生獣被害対策は効果が出ません。獣害でお困りでしたら、農産普及課までお問い合わせください。



子ザルが多くなっています

褒章を受けられました！

令和元年「春の褒章」受章 野田秀明 さん

野田秀明さんが令和元年春の褒章を受章されました。

昭和29年頃から農業経営を開始され、平成元年には15 haで水稲・麦・大豆と畜産（肥育牛）を組み合わせた複合経営を展開されました。副産物である牛糞堆肥を水田に施用することで、増収と地力向上を図り、持続性の高い農業を実現されました。

また、農業経営に対する情熱と先見性から、地域の農業組合長やJA 東びわこ稲枝受託者組合長などを歴任されました。ブロックローテーションによる集団転作にいち早く取り組み、生産性の向上を図るとともに、「麦+大豆」体系を地域に定着させることで、水田の高度利用と収益性の向上を実現されました。さらに、「人・農地プラン」事業が始まる以前から作業の効率化を図るため、農地の交換分合による集約化や畦畔除去によるほ場の大規模化に率先して取り組まれるなど、強いリーダーシップで地域農業をけん引されました。加えて、滋賀県指導農業士会理事を務め、数多くの農業大学の学生の研修を受け入れ、若手農業者の育成に貢献してこられました。

このような功績が認められ今回の受章となりました。さらなる御活躍が期待されます。



STOP！ 農業濁水 春作業に向けて今一度確認を

近年、田植期間が長期化してきており、それに伴い農業濁水の発生も長期化しています。

農業濁水のほとんどは、入水後水田畦畔からの「漏水」「落水」「溢水」によって発生しており、濁水が出ているという事は水や肥料を無駄にしていることに他なりません。

濁水を減らすために、以下の点に注意して作業してください。



農業排水対策のポイント！！

- ①入水前にあぜ塗り機で畦畔をあぜ塗りする
- ②あぜ塗り後に、あぜ際をトラクタ後輪で踏みしめて漏水を防止する
- ③水を入れる前に尻水戸を土できっちりふさぐ
- ④入水後は、排水路に水が漏れていないか確認する、小動物の穴から水が漏れていないか確認する
- ⑤浅水代かき（土が見える割合 70～80%）を行うために、必要以上に水を入れない
- ⑥田植え前の強制落水は絶対にしない
- ⑦最初の代かき作業は周囲からていねいに行う



最近では、被覆肥料殻（プラスチックごみ）の流出等も問題となっています。濁水だけでなく、川にゴミを流さないようにして、琵琶湖にやさしく無駄のない農業を行いましょう。